

自己中心的な愛が憎しみへと変わる

男女間の感情のもつれを原因とする殺傷事件が、週刊誌や新聞紙上をにぎわすことがある。きのうまでは愛していた相手を、なぜそこまで憎むことができるのだろうか。相手を憎むきっかけは、恋愛関係が終わったときがもっとも多いと思われるが、お互いの心が冷めてしまえば問題はない。しかし、相手に拒まれたことで自尊心が傷ついたと感じたり、自分に向けられていた愛情が他人に向かうことへ嫉妬したり、**悲しみの代償行為**だったりして、憎しみが生まれる。

とくに、自尊心が傷つけられたとき、その愛が深ければ深いほどダメージも大きく、憎しみも大きくなる。愛が憎しみに変わるのは自分の思うような結果を得ることができなかったことへの**自己中心的な恨み節**である。

恋人が浮気したとき、女性は相手の女性を攻撃し、男性は自分の恋人を攻撃する。愛についての考え方の違いがあるからだ。女性は、愛情はつくり上げるもので、修復できると考える。そこで、修復の障害となる相手の女性を排除しようと攻撃する。逆に、男性は愛情はそこにあるもので、修復はできないと考える。したがって、相手の女性に愛情がないとわかった時点であきらめる。

図解雑学深層心理 ナツメ社 渋谷昌三